

奈良女子大学記念館

奈良女子大学記念館は、明治41年（1908年）2月に着工、翌年10月に竣工し、奈良女子高等師範学校本館として、創設当初から一階は事務室、二階は講堂として利用されていました。

昭和24年（1949年）に国立奈良女子大学として生まれ変わった後も、この建物は大学本部と講堂として使用されていましたが、昭和55年（1980年）に本部管理棟が、昭和58年（1983年）に講堂が、別に新築されたため、平成2年（1990年）に「記念館」と名称を改め、保存することとなりました。

平成6年（1994年）に改修工事を行い、同年12月27日に守衛室（附 正門）とともに国の**重要文化財**に指定され、一階は展示室、二階は講堂として活用しています。



◆ 特徴 ◆

木造2階建て

入り口には
車寄せ

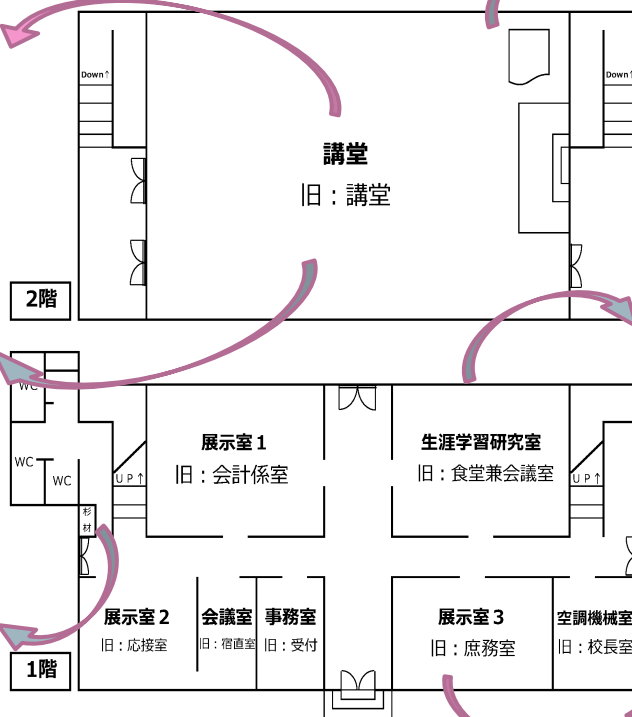
屋根の中央に
ランタン

ヨーロッパ北
部にみられる
ハーフティン
バーの外觀

館内に設置さ
れた、昔の女
学生に合わせ
た低い手すり

講堂

300人座れる広さですが、柱は1本もありません。建設当初からの長椅子が今も使用されています。



花形飾りの換気口

熱気が屋根から自然に外に逃げていくように工夫されています。大きなシャンデリアは、建物建設当時のものです。



杉材

春日山の原始林で採取されたものです。昭和の三大台風「室戸台風」（昭和9年）で倒木しました。年代を調べる研究に使われました。



百年ピアノ

奈良女子高等師範学校の創立当時（明治42年授業開始）に購入されたもので、修復後現在も使用しております。



生涯学習研究室

校旗や昔の寄宿舎生活、授業風景のパネルを展示しております。



展示室3

理学部生物学教室が集めてきた動物標本が展示されています。日本では絶滅したとされる、ニホンアシカ、トキ、キタタキ等があります。

